

ブック NOTICE OF BOOK 紹介

朴仁相 著 ● (財)国際労働財団 (2010年11月発行) 労働運動ひとすじ ～労働運動40年朴仁相 回顧録

本書は、日本のIMF-JCとしてもなじみの深い、元・韓国金属労連委員長の朴仁相さんの自らの40年間にわたる労働運動に携わった回顧録である。

氏は、1988年～96年まで3期、韓国金属労連委員長を務めた後、96年にナショナルセンター韓国労総委員長に当選、以後再選。2000年民主党比例代表で国会議員に当選。2004年3月政界を去り、8月韓国国際労働財団理事長(現・国際労働協力院)に就任。現在、国際労働協力院の運営委員長として活動。

韓国金属労連委員長時代は、日韓金属労組定期協議を定着させるなどIMF-JCと韓国金属労連との連携・友好にも力を発揮された。

本書はソウルの「毎日労働ニュース」に長期連載された同氏の回顧録をまとめたものである。氏は回顧録の連載と刊行の提案を受けた時の気持ちをこう綴っている。「連載と刊行の提案を初めて受けた時は正直とてもためらった。今までわが国労働運動史に立派な足跡を残して来られた多くの先輩・後輩の同志たちがいるのに、至らない私の経歴を記録し、本にして出すことは、恥ずかしい限りであり、軽率でもあるからだ」と。

しかし、「回顧録を刊行することの趣旨が、一人の名望家の誇らしい人生の路程を著すというものではなく、労働運動の激変期をくぐってきた年老いた労働者の視線を通じて、その時代を記録し、時代精神の含意を考え、後輩達の活動に参考になるようにしようという編集者の懇切な要請に心が動かざるを得なかった」と引き受けた思いを正直に綴っている。

労働運動40年間の自身のターニングポイントとしては、30歳の時のストライキ闘争を挙げている。「人生長らえてみると誰し

も変曲点があり、逆境もあるのだが、私もまた変化と浮沈が多い人生を生きてきたように思える。1960年代後半の厳酷な軍事政権下で30歳になったばかりの年齢で50日間の熾烈なストライキ闘争を展開しながら、深い同志愛を感じたし、非常な裏切り涙したこともあった。失敗したストライキのなごりで私の運命にはいつ終わるとも知れなかった獄中生活も経験した。結果的にそのときのストライキは、私の人生の方向を決定したもっとも大きな大きな事件であり、転換点であった」と。



本書の訳者である金元重さんは、現在、千葉商科大学商経学部教授として活躍されているが、IMF-JCとの付き合いも長い。朴仁相さんが韓国金属労連委員長になれる前から、昔は年に2回程度、韓国金属労組訪日団が日本の労使関係や労働運動について研修するために定期的に訪日していた。その時の通訳を若き金元重さんが誠実に一生懸命されていた姿が思い出される。もちろん朴委員長の時代からスタートした日韓金属労組定期協議でも通訳、翻訳などでお世話になってきた。

「本書の現代『ウエチュルタギ』は『綱渡り』

という意味であるが、韓国語で普通『綱渡り』というときは『チュルタギ』という語が使われる。チュルが綱で、タギは乗るという動詞『タダ』の名詞形である。しかし本書の原題ではあえて『ウエ』という『一本の、一筋の』を強調する語を付すことによって、労働運動一筋に邁進してきた、その一途さを著そうとしていると思われる。したがって、日本の書名としては『労働運動ひとすじ』ということになったが、これはこれで『ウエチュルタギ』の『ウエ』に込められた意味合いを活かした題名になっていると思う」と。

「この自叙伝風の回顧録は、朴仁相氏が



祝辞を述べる西原 IMF-JC 議長

釜山の大韓造船公社で労働者として、労働組合の一步を踏み出してから、金属労組釜山地域支部、金属労連、ナショナルセンターである韓国労総へと、その歩みを重ねてきた過程を少年期の思い出なども差し込みながら生き生きと描き出している。そして、一人

の青年労働者の組合活動を通じた成長過程や組合リーダーとして成長していく姿が、1960年代から90年代にかけての原題韓国労働運動史の激動の歴史に織り込まれながらドラマチックに描かれていて読む者をぐいぐい引き込んでいく魅力がある。その意味で、本書は、現代韓国労働運動史の貴重な証言であると同時に、労働運動の一人の「先輩」が、「後輩たち」に語りかける人生指南の書といった趣もあり、味わい深い読み物となっている」（訳者あとかぎ）

本書の圧巻として、96年12月から97年2月にかけての労働法改悪反対ゼネスト闘争に関する部分が特筆される。訳者金氏も「韓国労総委員長として韓国労総史上はじめてのゼネストを、設問もないもう一つのナショナルセンターである民主労総との共同闘争として成功させた経緯の記述は、本書の圧巻と言ってよいだろう」と述べている。

とまれ、現代韓国労働運動の生々しい歴史を朴氏の経験にもとづいて書かれた本書は、韓国労働運動を理解する上で一読に値する書といえよう。（美）

〔写真〕、2010年11月17日に東京・ホテル京王プラザで行われた（財）国際労働財団主催の本書出版記念パーティー後のIMF-JC朴仁相さんを囲む会でのもの。上は奥様、ご息女と共に謝辞を述べる朴さん